

日本小児感染症学会若手会員研修会第4回安曇野セミナー

安曇野の夜は更けて

小 田 慈*

小児感染症学会夏季セミナーも4回目を迎えました。今年度も、信州は安曇野、ほりで一湯において、2013年9月7～8日、全国各地から39名の参加者を得て開催されました。講師陣は研究教育委員会メンバー10名、そして、例年のように、地元長野県立こども病院の8名の先生方がスタッフとして加わり、会場設営、受付など細かいことすべてを受けもっていただきました。

今回は、テーマを決めてグループワークを中心に進めようという本セミナーの主旨が、最大限発揮されたセミナーとなったように思います。

事前に6つのテーマを決め、参加者の方を希望に従ってA～Fの6グループに分け、それぞれのグループにチューターが1～2名加わり、それぞれのテーマについてセミナー前からメールによるディスカッションを通じて情報交換を行い、セミナー当日は事前に収集した情報をまとめ、ある程度プレゼンテーションを前提としたスライド作成も準備できた段階で顔合わせをし、限られた時間で最終的なまとめを行い、発表を行うというタイムテーブルでした…。が、現実的には、各グループによりかなり進行度に差があることが、セミナーが近づくにつれ、委員会メンバーの間で気がかりになってきました。

一体どうなることやら、ちゃんと各グループ、セミナー期間中のプレゼンテーションまでたどり着けるのか、いや、きつとたどり着けるよ！という期待と不安のなかで、初日のスケジュールは進んでいきました。予定されていた休憩時間もすっ飛ばし、グループワークに没頭する（没頭せ

ざるを得ない？）グループもでてきました。

しかし、お楽しみの夜の部をとばすことはできません。一番の楽しみであるバーベキューは、予定通り夕刻より開始、バスが4～5台は収容できそうな大きなガレージのなか、乾杯の後、大いに盛り上がりました。やはり、このような交流があったこそこのセミナー！と実感します。きっと、このような場で時間を共有し、お互いを知り合ったことが、将来の人としての交友、医師・研究者としての協力、そして共同研究の礎となる重要なポイントとなるのでしょうか。しっかり食べ、飲み、おしゃべりし、笑いあった後は入浴タイムです。さすが安曇野、温泉は快適です。日本人に生まれてよかった！と温泉につかりながら感じるのは、筆者だけでしょうか。

さっぱりした後（さっぱりせず、バーベキューの臭いを漂わせたまま、カンファレンスルームに直行し、プレゼンテーションの準備にこもった人たちもありました！）、再びグループワークタイムです。それぞれのグループでの熱心な話し合いが続きます。予定では1時間のグループワークでプレゼンテーションの準備完了、その後は体力の続く限りの懇親会ということになっていましたが、終了！の声をかけにくい雰囲気での真剣な、いや、切羽詰まった表情でのディスカッションが続いているグループもあります。

予定時間を30分以上オーバーしたころ、しびれを切らした幹事長!?の一声で懇親会が始まりました。さすが、若い方たちは切り替えが早いし、上手です。再び乾杯、そして慣例の“持参した各

* 岡山大学病院小児血液・腫瘍科/大学院保健学研究科

地のお土産：もちろんお酒のつまみ、あるいはお菓子です！”そして“好きな抗生物質は…”を含めての自己紹介と続いていきます。大いに盛り上がりました。そして、23：00を回った頃、一次会はお開きとなりました。例年であれば、この後、場所を変えて懇親の場が続くのですが、今回は様相が異なります。宴会の後片づけを済ませた後、カンファレンスルームのあちこちで、パソコンを中心に各グループのメンバーが額を寄せあって、スライド原稿の作成を再開しています。あーでもない、こーでもない、いや、そこはこうしようといった会話が耳に飛び込んできます。いったん解散したと思われたグループも、しばらく経つと湯上り姿で再び集まって、スライド原稿作りを再開しています。その傍には各グループのチューターたちが、参加者たちの熱気に圧倒されながら頑張っけて付き合っています。

結局、この作業は、翌朝のAM2：00を過ぎる頃まで続きました。もちろん、スライド原稿作成が終わった後、体力の続く限りの宴会を続けた猛者たちもいます。

さて、翌8日、天候のせいもあり、早朝の散歩に参加した人はさすがにいませんでしたが、朝食会場では、参加者全員の爽やかな？ 笑顔がみられました。朝風呂に入って、さっぱり（酔いを醒ました？）した顔もありました。プログラム開始はAM8：00と早かったのですが、遅刻者を一人も出すことなく、グループ発表が始まりました。各グループによる事前の心配もなんのその、素晴

らしいチームワークによって成し遂げられた、聴く人を魅了する発表が次々に披露されました。本誌に別稿で掲載されているレポートをみていただければと思います。

6グループによる発表も終了した後、堤裕幸理事長、森内浩幸委員長から39名の参加者に修了証書が手渡され、今年度の夏季セミナーも無事終了となりました。

小児感染症学会夏季セミナーも今回で4回目を迎えましたが、今回は本セミナーの最大の目玉であったグループワークに最も時間を割くことのできたセミナーになったように思われます。同時に、若手参加者たちのいざというときの集中力、頭の切り替えの早さが、ひしひしと伝わってきたセミナーでもありました。きっと、現代の研修医の方たちは、忙しい臨床研修の合間を縫って、あるいは徹夜で資料をまとめ、学術集会での発表を行っているのであろう、そしてその間も、頭を素早く切り替え、心身をリフレッシュしながら毎日を過ごしているのだろうと感じさせられました。

今回も、参加された方々の今後の医師人生や研究生活にとって、人と人とのつながり、出会いの大切さを心底感じさせられるセミナーとなったと思います。今回のセミナーに参加された方々の、今後の活躍を願ってやみません。

最後に、今回もセミナー運営にご協力いただいた、長野県立こども病院の先生方に心よりお礼申しあげます。

* * *